

ぎふしん愛の募金
県医師会に30万円
「コロナ対策に役立てて」

岐阜信用金庫は新型コロナウイルス対応に当たる医療従事者に役立ててもらおうと、役職員から寄せられた「ぎふしん愛の募金」の一部の30万円を、県医師会に贈った。

募金は1992年度か

光崎修常務理事(左)から目録を受け取る河合直樹会長。岐阜市
薮田南県医師会館



ら、支店を置く各地の社会福祉協議会などに毎年届けている。例年は街頭やイベントで呼び掛けた募金を合わせて届けているが、今回はコロナ禍の影響で役職員のみから善意を集めた。県医師会への寄付は2年連続。

岐阜市薮田南の県医師会館で寄贈式を行い、同金庫の光崎修常務理事が「新型

コロナ対策の最前線に立つ医療従事者の皆さんに役立ててもらえれば」と話し、目録を河合直樹会長に手渡した。河合会長は「2年連続の寄付でありがたい。まん延防止等重点措置が解除されたが、感染状況は依然として厳しい。募金を活用して県内の医療現場の隅々まで目配りが行き届くようにしたい」と述べた。

(山本貴史)